みなと物語

大阪港のかつてのシンボル ハーバーレーダー

昭和39（1964）年、大阪港の中央突堤に、ハーバーレーダー塔が設置されました。

竣工当時のハーバーレーダー（昭和39年）

ハーバーレーダーは、正式には「大阪船舶通航信号所」といい、海上保安庁の施設です。船舶通航信号所は、多数の船舶が行き交う水域において、気象情報や、船舶の動静・港内の工事作業の状況など安全な航行に必要な海上交通情報を収集し、それらの情報を定時に放送するとともに、船舶からの要求に応じて必要な情報を提供する役割を担います。

中央突堤の先端にそびえるハーバーレーダーは、海上からは大阪港の大関門を入港した真正面に、そして陸上からは高架の終端駅（当時）である地下鉄中央線大阪港駅の延長上に位置し、紅白に塗られた外観も相まって、まさに大阪港のシンボルと言える存在でした。

ハーバーレーダーがあった頃の中央突堤（平成2年・大阪市港湾局提供）

塔の頂上で、レーダーが常時回転している様子も、また目立つものでした。

しかし、ウォーターフロント開発の進展に伴い、周辺に建てられた高層建築や阪神高速道路の橋梁が邪魔になって、情報収集のためのレーダー機能が低下し、新しいレーダー塔が夢洲（此花区）の埋立地に建設されることになりました。そして、大阪港咲洲トンネルの建設工事のため、平成2（1990）年11月、中央突堤のハーバーレーダーは撤去されました。

当時の新聞記事は、撤去を直前に控えて、大阪船主会のメンバーが遊覧船でレーダー塔の周囲を巡る「お別れ会」をしたことを伝えており、ハーバーレーダーが、大阪港のランドマークとして親しまれていたことが偲ばれます。